

川崎レナアトリエレポート①：ふるさとアトリエ

アトリエの昼はアトリエ中に響くどんちゃんの「ご飯にするぞ！」で始まる。NPO で働いてる人もボランティアの大学生も、もちろんひろみちゃんとかリカちゃんとかラーメンちゃんもお疲れ様でーすとか言ってアトリエの3階で一つのテーブルを囲んでどんちゃんが作った昼ごはんを毎日食べる。

「今日のお惣菜のワカメはゆりのちゃんのお父さんが土曜日に持ってきてくれたやつですー」とどんちゃんが発表したものを「そうなんだー」とみんながその子とお父さんのことを考えながら美味しくありがたくワカメを食べる。楽しい食卓がアトリエの3階に出来上がる。



楽しいご飯タイムの写真、どんちゃんはエプロンつけて気合いバッチリ

ごちそうさま！をしたと思ったらすぐ午後の幼児クラスのみんなが2階におかあさんおとうさんと元気いっぱいやってくる。今日はダンボール迷路をみんなで作る日。アトリエのクラスは全て「導入」という時間で始まるのだけれど、アトリエに来て1日目、この時間に

すごく感動させられた。幼児クラスの「導入」は絵本の読み聞かせで始まる。



お家の人も兄弟もみんなで絵本に熱中

今日はワニさんがすごく大きな穴を掘るお話し。「ワニさんの頭になんか乗ってるー！」
「びっくりしたー！」「今日短パン履いてきたー！」みんなからキャッキッと関係のある
こともないこともごちゃ混ぜの合いの手が飛ぶ中お話が進んでいく。絵本が終わったら、次
はダンボールと使う道具をみんなに紹介する。ビーバーくんとかモンブランくんが最初のダ
ンボールを持ってきて、平たいダンボールの中を「じゃあ通りたいと思います！」って言っ
て絶対通れない平たいダンボールの中を通ろうとして「そんなんじゃ通れないよ！」ってみ
んなに怒られる。「じゃあどうやったらダンボール迷路できるかな？」って聞くと「セロハ
ンテープ！」「ガムテープ！」とみんながアイデアを出して、セロハンテープを使ってみて
ぺたぺた。「セロハンテープって弱いね！」ってなったら今度はみんなでガムテープを使っ
てみる。ガムテープってこうやって手で破けるんだよってビーバーくんが説明しながらさっ
きの平たいダンボールが箱型になる。ここで一番年上のリーダーのエイト君の出番。エイト
君がみんなで作ったダンボールにえへへって言いながら入り、ビーバーくんが「エイト君の
お母さん宅急便でーす」と言うとエイト君のお母さんがはーいって言いながらみんなはニヤ
ニヤ。エイト君のお母さんがダンボールパカ！エイト君がピョーンって飛び出してみんなは
大笑い！最初の導入の時間は一緒にきた大人の人とも一緒に楽しめて一緒に勉強できる時
間。

「アトリエにきてから導入の時間もみんなのペースで進んでるのを見て、家でも予定通りに
この時間はこれ、この時間はこれって進めなくていいんだって思いました。ここに来てから

うちの子も喜怒哀楽がすごいしっかりしてきたんだよ！」と嬉しそうに遊びが終わった後、
幼児クラスにきていた子のお母さんが教えてくれた。



ダンボールだけでこんな楽しいんだ！と感じた幼児クラスの導入の時間

幼児クラスが終わるころゾロゾロと小学校クラスのお兄さんお姉さんがやってくる。今日はみんなで新しい漢字を発明する授業。アトリエにはボランティアにきている大学生のみんながいるのだけれど、そのみんなもその漢字発明は特に苦戦した。自分がサポートしている子にどうワクワクしていいアイデアを考えてもらうか、その子と一緒に考えた漢字どんちゃんがオッケーしてくれるかな？と一緒にドキドキしながらどんちゃんの顔を見る。中にはイライラして泣いちゃう子とか思い通りのアイデアが出なくて絶望しちゃう子も出てくる。まず作りたい漢字の絵から書いてみよう作戦とか、一回他の子のアイデア覗き見作戦とか大学生も必死になってみんなを誘導する。

ここですごいのが授業の後あんなに子どもがいるのにリカちゃんとかひろみちゃん
は「カフェオレちゃんさっきの対応よかったね。」とか「ぱらぱらちゃんあの子がああなっ
ちゃう時はこういう作戦でやって見たらいいよ」とかちゃんと大学生の事も見て、育ててく
れる。大学生になると叱ってもらうこととか直接思いつき褒めてもらうこととかがすごく
少なくなってきたなと最近感じる。小さな人間たちと葛藤していく中、ちょっと大きくなっ
た人間たちも毎日ちょっとほっこりしたり落ち込んだり励まされたりされてもうちょっと大
きくなれている。



みんなに今日やることを説明するどんちゃん



一緒に考えた漢字、これはラグビーのトライと読む

みんながその日作った作品は毎回のクラスが終わる頃アトリエの壁に張り出される。まだかなーってみんなのお家の人アトリエの後ろからワクワクして作品をみんなと一緒に見にくる。「はい！じゃあこの漢字なんて読むか！アンナのお父さん！当てろ！」と大人も混ざってどんちゃんにイジられてみんなでゲラゲラ笑う。で、今日うまく行った子も泣いちゃった子もどんちゃんにみんなの前で褒めてもらう。



真剣にみんなの作品をみるお家の人たち

みんなでさようならをしたらお家の人がどんちゃんやりカちゃんにうちの子今日も学校行けなくてとかの悩みを聞いてもらったり、気になる子の家族にどんちゃんが直接話しかけてこういう対応はよくないんじゃないかとか、これからこういうふうに接していきましょうとか一緒に考えたり親に注意したりする。大学生の自分でもそうのようにやっぱりお母さんとかお父さんもちょっと叱られたりとか一緒にぶつかって考えてくれる人がいると安心するのかなと思う。最近はおせっかいが悪いことになってきちゃっているけど、私たち大学生はその人と一緒にぶつかるそんな関係を作れる大人になっていかないといけないんだろうなと思いつつながら今日使ったペンとか紙を片付ける。

そんな関係を保てる、ただいまっていつでも帰って来れる、ふるさとアトリエを創ってきたんだとどんちゃんと言う。



アトリエの時間が終わったころ、近くをランニングしてたからきました！とアトリエ卒業生が帰ってきた

アトリエに来て1週目、このアトリエは習い事っていうより、どんちゃんが言うように自分も含めてたくさんの人にとってふるさとなんだろうなと振り返った。学校では問題児とか学校に行っていない子を今の時代頑張って行政からどうにかしていこうっていう流れがきている。でも、こういう関係って人工的にマニュアルにそってできるものではないし、どんちゃんリカちゃんロボットを大量量産しても全く同じふるさとを大阪とか沖縄でももちろん作れない。この仙台でこの建物一つで、みっちり何十年もって言うこだわりがみんなのふるさとを創っている。

将来法律とかを作りたい自分みたいな人間はじゃあどうすればいいのか、どんちゃんはどうしてなれるような人じゃないしなーと一週間考えてた。アトリエはおせっかいでフランクな大人たちがいい感じにパズルみたいにハマって成立している奇跡な空間みたいに感じてきた。うまく行き過ぎている気がした。じゃあ「どんちゃんとかリカちゃんとかがいなくなっちゃったら私たちはどうすればいいんですか？」とアトリエの2階の赤いオフィスで二人に聞いてみた。「それはレナたち大学生とか若いスタッフがここで働いて自分なりに感じたことを持ち帰る。で、自分たちがアトリエで学んだことを使って活躍してもらおう。心配はしていない。」とどんちゃん。そうか。どんちゃんが心配してないならちょっとほっとする。子どもが自分らしく生きる、意見をいう、安心して表現する環境、地道にベタベタ、時にはおせっかいな大人たちが自分たちらしく自分たちが思うただいまっていえるふるさとを創っている。今はたくさんここで成り立っているものをスポンジみたいに吸収して、次会った時にレナちゃんがいるアトリエに帰ってきてよかったって思ってもらえるように小さな人間たちと全力でぶつかる。法律とかごちゃごちゃ言ってるより今はそっちの方が大切だった一週間だった。来週もがんばります！

